

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1】

授業作り	重 点	個に応じた指導の充実を図るとともに、児童の表現力を高め、児童相互の学び合いを中心とした主体的、対話的で深い学びをつくる指導方法の在り方を探る。
環境作り		ユニバーサルデザインに配慮し、全ての児童が主体的、対話的で深い学びを行うことができる学習基盤をつくる。学習や生活ルールを統一し、全ての児童が安心して学習に臨める環境作りを目指す。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字を正しく覚え、正確に読んだり書いたりできるようにする。 ・様々な種類の文章を読み、内容を理解できるようにする。 ・日常生活に必要な言葉を正しく使い、相手に分かりやすく伝えられるようにする。 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数の構成の特徴を理解し、数の表し方や加法・減法などの基礎・基本の定着を図る。 ・分かったことや気付いたことを自分なりの言葉で表現する力を高める。 	<p>【全教科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもち、安心して学習に取り組めるようにするための学習展開のパターン化 ・ペア学習やグループ学習などの、多様な学習形態の工夫 ・デジタル教科書やタブレット端末など、ICT機器の活用 ・プリントやドリルを活用した繰り返し学習の実施 <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書活動、読み聞かせの充実 ・音読活動の充実 ・語彙の習得と言葉で表現する活動の充実 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体物を操作する学習の充実
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・新しく学ぶことへの意欲を高める。 ・自分の思いや考えを明確に伝える力の育成を図る。 <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を使ったり、正しい筆順で書いたりする意識を高める。 ・拗音や促音を正しく使って文章を書く力や、書いた文章を読み直して間違いを直す習慣を付ける。 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がり、繰り下がりのある問題に対する計算力を高める。 	<p>【全教科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリル等を活用した繰り返し学習の実施 ・ペア学習やグループ学習などの学習形態の工夫 <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の文章や詩の視写、教科書の音読の継続的な実施 ・週末の日記等、書く活動の定期的な実施 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算練習の実施

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
3 学 年	<p>新宿区学力定着度調査の結果から、国語科、算数科ともに区平均程度以上の正答率であり、学力定着の状況は良いと言える。中でも、思考・判断・表現を問われる問題の正答率が区平均より高かった。</p> <p>一方で、C層とD層の合計が国語科で約40%、算数科で約47%おり、個別の支援を行う必要がある。</p>	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を書く中で、助詞や拗音、促音、片仮名を正しく使い、既習漢字は正しく覚えて書けるようにする。 相手を見て話したり聞いたりさせることを通して、自分の思いや考えを明確に表現する力の育成を図る。 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、それらを会話や文章の中で使い、語彙を豊かにする。 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 繰り上がり、繰り下がりのある計算を正確にできるようにする。 九九の習得が不十分なため、繰り返し学習などを通して身に付けられるようにする。 課題解決の方法を考え、図、式、言葉などのいろいろな方法で表現できるようにする。 	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業での音読活動や音読カードの活用 漢字ドリルノートの活用 漢字のミニテストの活用 日記や学習感想など、文章を書く活動の設定 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数指導を活用した、個に応じた指導の充実 算数プリント、デジタルドリル等を用いた繰り返し学習の実施 児童の理解度を把握するための単元末テストを実施
4 学 年	<p>新宿区学力定着度調査の結果では、国語科、算数科ともにおおむね区平均並みの正答率だった。</p> <p>一方で、どちらの教科でもD層の児童が約25%おり、支援が必要である。</p> <p>【国語】</p> <p>「書くこと」及び「読むこと」の正答率が区平均をやや下回っている。また、思考・判断・表現を問われる問題の正答率も区平均より若干低く、課題がある。</p> <p>【算数】</p> <p>おおむね区平均は上回っているが、「測定」領域で少し課題が見られた。</p>	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を正確に読み取る力を高める。 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、それらを会話や文章の中で使い、語彙を豊かにする。 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える力を伸ばす。 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 用具を正しく用いて正確に作図する力を高める。 筆算の計算の定着を図る。 	<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業での音読活動の充実 音読カードの活用 読解が難しい児童に対する補助的なワークシートの活用 一人ひとりの課題に合わせた取組方の提示 漢字ドリルノートの活用 漢字のミニテストの活用 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルドリル及び紙ベースの計算ドリルの活用 習熟度別指導による、個に応じた指導の充実 児童の理解度を把握するための単元末テストを実施

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
5 学 年	<p>【国語】 新宿区学力定着度調査の結果の推移では、A層が約10%以上増え、C層とD層の合計が約13%減少した。 一方で、「書くこと」の正答率が区平均を大きく下回っており、課題がある。</p> <p>【算数】 「図形」と「データの活用」領域で区平均を大きく下回っている。 C層とD層の合計が約64%おり、丁寧な個別支援が必要である。</p>	<p>【国語】 ・目的に合わせて自分の意見や考えを表現する力の育成を図る。 ・自分とは異なる意見や考えに触れ、自分の考えを深めようとする意識を高める。</p> <p>【算数】 ・四則計算や図形、データの活用について正しく理解する。 ・問題を解決する過程を論理的に、順序立て説明する力を高める。</p>	<p>【国語】 ・日常的な作文と読書の推進 ・語彙を増やすための言葉調べや熟語の意味を広く知る活動の設定 ・話し合い活動や意見文の読み合い等の、考えを交流する活動の設定</p> <p>【算数】 ・家庭学習を含むデジタルドリル等の効果的な活用 ・授業の終末におけるふりかえり活動の充実 ・児童の理解度を把握するための単元末テストを実施</p>
6 学 年	<p>新宿区学力定着度調査より</p> <p>【国語】 A層の児童が約37%おり、基礎的な知識・技能が問われる問題の正答率が区平均を大きく上回るなど、学習内容の定着状況はよいと言える。 どの領域でも区平均を上回っているが、「読むこと」の領域について、さらに力を付けさせたい。</p> <p>【算数】 A層とB層の合計が約64%と、高い水準に達している。 どの領域でも区平均を上回っているが、「図形」と「変化と関係」領域について、さらに力を付けさせたい。</p>	<p>【国語】 ・自分の考えを論理的にまとめ、書く力を高める。 ・複数の文章や知識を比較したり、関連付けたりしながら読み、自分の考えや事象の特徴を説明する力の育成を図る。 ・友達と考えを交流することをとおして、自分の考えを広げたり深めたりしようとする意欲を高める。</p> <p>【算数】 ・割り算や分数の計算や、図形の特徴の理解について定着を図る。 ・解法のプロセスを順序立てて書き、発表する力を高める。</p>	<p>【全教科】 ・児童の体験や経験、既習事項と関連付けた導入や展開の工夫</p> <p>【国語】 ・日常的な読書活動の推進 ・文字数を指定した、書く活動の設定 ・複数の文章を対比したり、関連付けたりしながら読む活動の設定</p> <p>【算数】 ・デジタルドリル等の活用 ・授業の導入時に、前時のふりかえりを実施 ・児童の理解度を把握するための単元末テストを実施</p>